



ニッポン ドクター和の 臨終図巻

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

「死に顔ピース」という終末期をテーマにした演劇があります。〈劇団ワンツーワックス〉の古城十忍(こじょうしのぶ)氏による作品で、山口県周防大島の在宅医・岡原仁志さんの活動にヒントを得た、感動の物語です。

岡原医師は、ピエロの扮装をして在宅診療をしたことで有名です。医者が自宅を訪れるだけで怖れを抱いたり、窮屈に感じる人がいます。その溝を埋めるため、どうやって患者さんを安心させ、笑顔になつてもらうかを考えることも、在宅医の大切な仕事なのです。

だから、テレビ番組でナポレオンの手品芸を見かけるたびに、僕も患者さんにこんなことができたらなあ、憧れをもって見ていました。今時の大げさなイリュージョンではなく、昔ながらの手品の数々は、その手の内がすくにわか

230 ナポレオンズ パルト小石



奥さまに抱かれたまま静かに……

手品のようにな。ピースフルな最期

そんなナポレオンズのパート小石さんが、10月26日に亡くなりました。享年69。死因は肺炎との発表ですが、小石さんは2019年10月に急性リンパ性白血病を発

症。20年7月に「寛解」し、退院したものの、その後もさまざまな症状が現れて、入院を繰り返していたといいます。

昨今は、抗がん剤治療の進歩で、「不治の病」ではなくなりましたが、小石さんのように、寛解した後も闘病が続くケースも少なくありません。この原稿を書いた

より、急性と慢性に大別されま

す。さらに急性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病など、いくつかに分類されますが、いずれも、詳しい原因は不明です。どちらも倦怠感や発熱、貧血症状などが初期症状として現れます。成人の急性白血病は、ほとんどが骨髄性で、

リンパ性に罹患するのは非常に稀です。昨今は、抗がん剤治療の進歩で、「不治の病」ではなくなりましたが、小石さんのように、寛解した後も闘病が続くケースも少なくありません。この原稿を書いた

下、抜粋します。〈午後4時26分。肺炎のため、至誠は逝きました。私に頭を抱きかかえられたまま。コロナ禍の面会禁止の中、防護服やマスクから僅かに出ていた頬を至誠の額に押しつけ、右手で頭を抱き、左手を至誠の心臓に押し当てていました。至誠はずっと自然昏睡の状態でも苦しまずに旅立ちました。部屋に入ることができたのは私だけ、至誠のお姉さん2人は別室でFace Timeでのお別れになりました〉

コロナ禍の病院での看取りに胸が苦しくなりますが、それでも奥さまに抱かれたまま旅立たれた。ナポレオンズの手品のようにな。ピースフルな最期でした。